

第2回 中富良野町景観計画策定委員会 議事概要

◎日 時	令和4年2月2日(水) 午後6時00分～午後7時30分
◎場 所	中富良野町役場・ZOOM
◎出席者	策定委員会：大矢委員、細川委員、内田委員、長谷川委員、荒木委員、安井委員、畠尾委員、 菅委員、遠國委員 ※ 欠席(本間委員) オブザーバー：中富良野町建設水道課 高橋課長補佐 事務局：中富良野町企画課 酒井課長、松本係長、筒井係長 コンサルタント会社：㈱KITABA 酒本、窪田、百瀬、松浦

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 議事

■中富良野町の景観の課題について

委員

- ・ 空き店舗の増加、市街地の魅力の低下については常々感じている。景観という視点で見ると地方都市は全般的にこのような課題を抱えていると思うが、これをマイナスとして捉えれば何とかしないといけなくなるが、それが過疎の地域の魅力になる可能性もある。
- ・ 景観において、空き店舗や空き地が必ずしもマイナスとも限らないのではないかと。過疎地域で空き家や空き店舗が増えていくことは、景観の観点から単純に悪くなっているということではないと思う。世の中には廃墟のマニアもおり、そこに魅力を感じる人もいる。
- ・ アンケートの回答者が158名であり、その結果で市街地の魅力が低下しているとなっているが、町全体の人口の中での割合を考えた時に、積極的に問題意識を持っている人の回答なので、ネガティブな意見が出てくるのは当然だと思う。
- ・ 景観計画策定にあたってこの市街地の問題解決を入れていこうとするには、テーマが大きすぎるのではないかと。

委員長

- ・ 廃墟の魅力を中富良野市街地に求めるのは少しギャップがあるような気がする。空地や空き店舗、シャッターが閉まったままの商店は、その町に住んでいる人や訪れる人にとっても景観的にはマイナスの要因ではないかと。

委員

- ・ 廃墟マニアもいるが、景観の観点からいうとラベンダーを見に来た観光客に、駅前など中心市街地を見て寂れた町だと思われるのもさみしく思う。
- ・ 小さな町でシャッター街になるのは分かるし、朽ち果てていくのが自然のままでいいという考え方もあるかもしれないが、景観を揃えるきっかけとするには、道の駅など核となるような集約された施設を設けることが重要だと思う。農協倉庫あたりの雰囲気が良いと思う。

委員

- ・ 商店街がいつの間にか歯抜けになってしまっているということは、課題として何年も前から言われていることである。
- ・ 商店街としても様々な事業を実施しているがあまり店舗数が増えないのが実情である。
- ・ 農協の倉庫の活用はすばらしいアイデアだと思っている。あのあたりを拠点的なイメージで取組を進めるのはお金がかかることだが、駅から北星山にかけての開発が進むと嬉しく思う。

委員長

- ・ 軟石倉庫は景観を形成していく際の一つの拠り所になる施設である。
- ・ 景観的に評価ができるものを拾い出して、それを拠点として市街地全体の景観を、ある方向性をもって整えていくような計画ができるとよい。

委員

- ・ 空き店舗は増えているが、みんなで協力しながら花を飾ることから始めて、そんなに店がなくても、訪れた人に綺麗な町だと思われるよう、手入れがされている町になると良い。
- ・ 農業委員の立場から、中富良野は農地が売れ残る場所がほとんどなく、荒地が少ないところであるが、後継者がいない農家も現在分かっているだけで40件ほどあり、今後は売れ残りが出てくるかもしれない。皆さんで努力しながら農地を守っていきたい。

■中富良野町の景観の現状・課題の整理について

委員

- ・ 私は中富良野町に生まれたころから住んでいるため、町の景観の良しあしが分かりにくいと思っていたが、令和3年11月ワークショップで意識して町の景観を見た結果、感じるものがあつたので、委員会のみなさんで町の景観を見に行くと共通認識が持てる。

委員長

- ・ 中富良野町内を委員会として歩いて見る機会を設けていただけるとありがたい。

委員

- ・ 町内の景観を委員のみんなで見て歩くのも一つだと思う。四季折々の景観を皆さんと見て議論したい。

委員

- ・ 委員が参加したワークショップの参加者は14名とあったが、14名の町民の意見をそのまま計画に反映するのは危険ではないか。
- ・ 参加者の属性が持つ価値観が良くわからないが、ワークショップに参加するのは意識の高い人だと思うことと、他の多くの人の意見と違うものも含まれているかもしれないため、そのまま景観計画に反映させるということは注意した方がよい。

■中富良野町らしい景観について（基本理念・基本方針）

委員

- ・ 景観街づくりの基本理念と基本方針の案に記載している、「中富良野町らしい」とはどういうことか。
- ・ 基本理念の案に「未来につなぐ」という文章があり、景観計画は次の世代にいい形で中富良野の良さを繋いでいく必要があるということは良いことだと思ったが、そのためには「中富良野町らしい」とはどんなことなのか明確になると、この景観計画の一番大事なところが見えてくると思う。
- ・ 「中富良野町らしい」とは何かを委員のみなさんに聞きたい。

委員

- ・ 中富良野観光協会のホームページを作る時に選んだ写真が、「中富良野町らしい」ということに繋がるかもしれない。
- ・ その時には「日常」、「のんびり」、「普段の生活」というイメージ写真を集め、ホームページを作成した経緯があった。

委員長

- ・ 直感的なものだが、中富良野町の景観の特徴として、十勝岳芦別岳という雄大な「自然景観」と、そのふもとにある富良野盆地に息づく暮らしや産業などの「文化景観」を併せ持つのが中富良野町の景観の最大の特徴だと考えている。
- ・ 一定規模の中にいろんな要素が入っているのが中富良野らしさだと思う。
- ・ 中富良野の地域は1年の半分は雪に覆われるが、この地域の景観を考える時は雪景色も景観要素になる。
- ・ 四季折々、様々な姿を見せる景観を整理すると、とても良い景観要素が見つかるのではないか。

委員

- ・ 15～6年前に町に来たが、中富良野町らしい景観は町の形にあると思う。
- ・ 市街地の中を国道が走っていて、街灯が魅力的である。電球色で雪の降る中、暖かい光に包まれた国道沿いがあり、国道から1本中に入ると中学校や役場や小学校が一つの道沿いに集中しており、魅力ある景観が整理・維持されている。
- ・ 北星山という里山があり、基線があり、JRが通り、市街地があるという佇まいが魅力だ。

委員

- ・ ずっとここに住んでいるとなかなか意識しないが、朝日が出て、夕日が沈む、普通の景色が中富良野町らしさなのかもしれない。

委員

- ・ 私は町に住んで年数が浅いが、中富良野らしさは多様な景観があることだと思う。丘、まち、畑、雄大な山並みがあって、それがすぐに移り変わる、各要素の場所にすぐに行けるのが大きな特徴だ。これだけ多様な景色を感じられるというのは、他にはなかなか無い特徴だ。
- ・ 基本方針は今後の議論だと思うが、「中富良野に合う」を意識したおしゃれな景観づくり」というのを追加してはどうか。
- ・ 中富良野には丘陵や市街地、田園など多様な景観があり、人によって作るもの、建物や工作物、屋外広告物の材質や色、形、高さなどは景観を印象付ける大事な要素だ。
- ・ 中富良野町の特性を生かすことができる、すなわち「中富良野に合う」を意識した、おしゃれな景観づくりを進めていく、ということの基本を持ってくると良いのではないか。
- ・ 中富良野町らしさを考えると難しいかもしれないが、中富良野に合うのはどんなものかを皆さんに聞いて考えていけたらよい。

■エリア区分について

委員長

- ・ エリア区分について、軸的景観としてJRの線路も重要だと考えている。
- ・ 以前ラベンダーを見に行き丘の上から田園を見ている時に、その間を列車が走り、とても絵になっている印象を受けた。町の中を鉄道が走っているというのは町の特徴であり、景観上も大事なポイントになるのではないか。
- ・ 列車の中から見える景観とともに、列車そのものを景観対象として見るができるというのもすごく魅力的ではないか。

委員

- ・ 東京の知り合いがこちらに来た時に、列車が1両で走っている風景を見てとても喜んでいた。
- ・ エリアごとに景観を見ていくことは大事だと思っている。エリア化しながら景観を考えていくのは賛成である。

4. その他

5. 閉会